



図書館だより（第5号）

R6年10月15日

北宇和高校図書委員会

中間考査も終わり、各種発表や委員会、クラスの展示、有志のステージ、即売など、文化祭に向けての準備にも熱が入ってくる頃です。図書委員会も、図書館で展示やクイズ、しおり作り体験コーナーを用意しています。どうぞお立ち寄りください。多数のご来場、お待ちしております。

今月は本校美術部の川上嵐さんの優良賞受賞作品と寄贈本を紹介します。例年になく、短い秋ですが、読書をするなどして、充実した秋を過ごしてください。



3年2組 川上嵐さん

第35回読書感想画中央コンクール愛媛県審査会〈指定読書部門〉
において「優良賞」を受賞しました！

作品名「別れの道」 書名「パップという名の犬」
著者 ジル・ルイス

川上嵐さんのコメント

私がこの本を読んで、感じたことは、動物を大切にすることです。そこが一番心に残ったので、作品に描きました。この本は、主人公のパップが捨てられるところから始まります。

ジャーマンシェパードの雑種パップは、まだ数か月の子犬だが、体が並外れて大きい上に吠え癖があるため、人間に捨てられ、愛する少年とも引き離されてしまった。途方に暮れるパップを助けてくれたのは、フレンチブルドッグのフレンチだった。フレンチの仲間になり、七匹の捨て犬たちと群れをつくって生きることになったパップ。人間嫌いのピットブル、人間と犬の絆を信じるラブラドル、群れのリーダーの小型犬レディ・フィフィなど、個性豊かな犬たちが登場する。人と犬の間には、本当に「聖なる絆」があるのだろうか？ ふたたび少年にめぐりあえる日は来るのだろうか？ 動物をテーマに物語をつむぎつづける作家、ジル・ルイスの力のこもった作品。



川上嵐さんの「優良賞」を受賞した作品は、図書館内に展示しています。作品を鑑賞しながら、この「パップという名の犬」も読んでみませんか。犬好きな人にもおすすめめの1冊です。

寄贈本

「認定NPO法人フードバンク山梨」様から、本を寄贈していただきました。
「フードバンクとぼく」 作 米山けい子 絵 三井ヤスシ

貧困を生み出さない社会をつくるために若い方々へ届けたい

この本は、私たちがフードバンク活動を通して出会った支援世帯の子どもたちの事例から着想し、創作したものです。

日本では「他者を頼ることは恥ずべきこと」といった感覚が強く、今日明日の食べ物に困るような生活に陥っても声を挙げられない状況があります。

「困ったときはお互いさま」を根付かせることが、だれ一人取り残さない社会の実現に必要な不可欠ではないかと考えます。



みなさんに、この本を通して「見えにくい貧困」の実態を知っていただき、身近で困っている日に対して何ができるのか考えてほしい。

また、助けを必要とする子がいたら、フードバンクという「温かい場所」が、社会にあることを伝えたい。

これからの社会を創る若い方々に手に取っていただきたいという思いで、クラウドファンディングに取り組み、集まったご寄付により、本を制作し、お届けしました。

「認定NPO法人フードバンク山梨」様からのメッセージ



フードバンクとは？

「まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を、困っている人たちに無料で提供する」しくみです。商品として出すことができない食品を企業などが寄贈し、必要な施設や団体、困窮世帯に無償で提供する団体および活動のことを指します。

フードバンクは、安全に食べられる食品を廃棄することを防ぎ、必要な人が無料で食品を受け取ることができるため、企業だけでなく個人、環境にも優しい取り組みと言えます。

フードドライブについて知っていますか？

家庭で余っている食品を回収拠点（スーパーマーケットや自治体など）やイベントに持ち寄り、地域の福祉施設や子ども食堂、生活困窮者支援団体などに寄付する活動のことです。県内のスーパーマーケットやコンビニでも回収を行っています。もし、家庭に賞味期限までの期間があり、未開封で余っている食品があれば、寄付しましょう。スーパーマーケット等に設置されている回収ボックスに食品を入れるだけで、OKです。気軽に参加できます。

